



飲みやすさ・溶けやすさ・免疫成分にこだわる 牛用初乳代用乳「さいしょのミルク」リニューアル

牛用初乳代用乳「さいしょのミルク」が2019年1月よりリニューアルし、パッケージも新しくなった。今回は、リニューアルした製品のこだわりポイントと利用方法をご紹介します。

初乳の重要性

牛は人間と違い、親から子へと胎盤を介して抗体を移行させる事ができない。そのため、出生直後の子牛は初乳を飲む事によって初めて抗体を得る事ができ、病気に対する抵抗力を持つ事ができる。

「さいしょのミルク」3つのこだわり

① 飲みやすさへのこだわり

牛の味覚は人間よりも敏感といわれている。新しい「さいしょのミルク」は、高品質の初乳をもとに

全農畜産生産部 推進・商品開発課

作られた初乳製剤原料と良質な乳原料をより多く使用している。それにより「苦味」と「渋み」を抑え、自然なミルクの香りとコクを実現できた(図1)。

② 溶けやすさへのこだわり

従来品同様、乳粉末を顆粒化する事で(写真)、顆粒の一粒一粒が分散された状態で溶けていくため、ダマになりにくく抜群に溶けやすい。

③ 免疫成分へのこだわり

最も重要となる免疫成分を1袋

あたり免疫グロブリン含量80gに強化した(従来品対比7% UP)。

また、リニューアル品を実際に子牛に給与し、血中IgG濃度が理想とされる免疫移行ラインを超える事を確認した(図2)。

「さいしょのミルク」の使い方

子牛の腸管からの初乳免疫抗体の吸収率は、出生直後を100%とすると、出生6時間後には50%に低下、12時間後には12%以下に低下し、24時間後には初乳抗体は腸管からほとんど吸収されない。

そのため、出生後12時間以内に重点をおき、生まれた子牛の状態に合わせた推奨給与体系をご案内する(図3)。

新パッケージ



図1. 苦味・渋みの低減

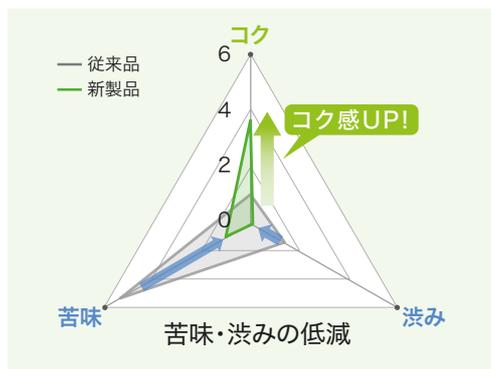


図3. 1袋あたりの湯量と、推奨給与と体系

(1袋あたりの湯量) ※溶かすお湯の温度は45~50℃

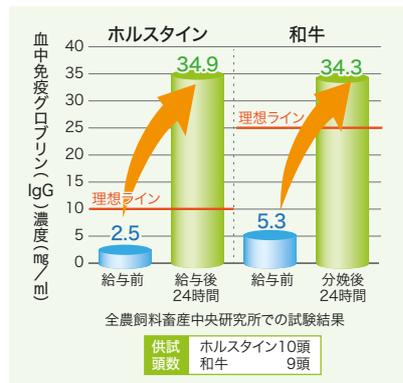
1回目 1袋 + 500ml
2回目以降 1袋 + 500ml~750ml

	和牛子牛の場合	ホルスタイン子牛の場合
哺乳意欲のある子牛	1回目 生後1時間以内 2袋	1回目 生後1時間以内 2袋
	2回目 生後6時間以内 1-2袋	2回目 生後6時間以内 2袋
哺乳意欲のない子牛	1回目 生後6時間以内 1-2袋	1回目 生後6時間以内 1-2袋
	2回目 生後12時間以内 1-2袋	2回目 生後12時間以内 1-2袋
12時間以内に2袋以下しか飲んでいない場合は、24時間以内に1袋		

写真. 光学顕微鏡での拡大写真



図2. 免疫成分の強化



「さいしょのミルク」に関するお問い合わせは、お近くのJA・くみあい飼料まで